

## 「自信が持てる生活」

校長 斎藤 滋

十一月末の朝会で話したことでありますが、子どもたちは私たち教員、そして家族からいろいろな声をかけられます。「きれいな字・丁寧な字を書きましよう」「やさしくしましよう」「親切にしましよう」「なかよくしましよう」「元気にすましよう」「片づけましよう」等々、いろいろな言葉が浮かびます。こういう声をかけられるとき、子どもたちにはどのように聞こえるのでしょうか。私たちは「・・・しましよう」と言っていますが、子どもには「・・・しなさい」としか聞こえていなかったとしたらこれは問題だなと思います。私も授業や普段の子どもたちとの関わりの中で、こういう声をよく使います。あるとき、書写の授業の準備をしながら、何人かの子どもの様子を思い浮かべていました。いつの授業でも何か課題を与えたときに、とにかく早く書き終わり、その後私からも少し丁寧に！と言われる子がいます。一度仕上げたものをやり直すのはとても嫌なものです。これは大人も子どもも同じでしょう。だったらどうすればよいのか。今更ではありますが、「きれいな字・丁寧な字を書きましよう」と声をかけるときに、どのようにしたらそれができるかを伝えなければならぬことに改めて気づかされました。私たちからの様々な声かけに対して、自分でどうしたらよいかを考えることができる子どもはそう多くはありません。しかし、みんなそれができ、できてほしいと思っている私がいいます。子どもたちはだんだんとそれが分かるようになります。ですから、分かるようになるまでは、その子が理解できるように言いつつ、伝え方をしていかなければならないでしょう。授業でそのように考えたことを実行してみました。なんと、いつも短い時間で「はい、終わりました」と言っていた子どもが時間を

かけて課題に取り組んでいたのです。どのような声かけをするか、その声かけにどんな願いを込めるか、子どもたちの表情をしつかり見ることで気づく自分でありたいと思います。

さて、中学校・高等学校に進んだ子どもたちの学習の様子（試験結果）がときどき小学校に知られます。その一つに、実力テスト成績上位者一覧があります。総合点、順位、さらには教科別の成績優良者が分かれます。そこには小学校卒業生の氏名が多く見られます。意外といつては失礼ですが、実によく頑張っていることが分かります。その結果から私が感じるのは、当然のこととして成績上位と思われる子がいると同時に、多くの教科で優良点はとれていなくても、自分の好きな教科、得意な教科を持っている子の強さです。好きな勉強や活動があることがその子自身の支えなり、そこで努力することの楽しさを知る。そして、それがだんだんと広がっていくことで大きな成長を見ることが出来る。私が理想とする姿がまさに中学校、高等学校で多く見られます。卒業生の頑張りや期待するとともに、今小学校で生活する子どもたちが、いつか大きな花を咲かせるためにも、努力することが楽しいと思えるような日々を過ごして欲しいです。

## 「マラソン練習を通して思ったこと」

教頭 馬場 淳

今年のマラソン大会の練習でも、熱心に練習に励む子どもたちの姿を見ることができました。メダルを目指す子もいれば、昨年の自分の順位やタイムをもとにして具体的な数字を目標に掲げる子、中には歩かないで完走することを目標にする子もいます。一人ひとりの目標は違っても、練習に励む姿はみんなひたむきです。一つの行事をまっすぐ受け止めて乗り越えていこうとする子どもたちから、私たちはたくさんエネルギーをもらっています。

そのような取り組みが見られる中、残念だったのは、コースを示すマーカーをわざと踏んでいる子が多数いたことです。

もちろん、練習する中でうっかり踏んでしまうこともあると思います。そういう児童は一度足を止めて、ずれてしまったマーカーの位置を元に戻してあげました。そのような時には、わざと踏んでいるわけではないので、蹴っ飛ばしてしまったりマーカーの端を踏んだりする程度で、たいいていは場合はずれに踏んでしまっている程度です。

しかし、故意に中心を狙って踏みつけた場合には、プラスチックできてきているマーカーは破損することがあります。おそらくゲーム感覚で、あまり深く考えずにそのようなことをしていたのではないことに気づいてほしいところではあります。今年はまだなかなかそういうわけにはいきませんでした。もちろん、子どもは夢中になると、正しいことを見失ったり、迷惑をかけてしまっていることに気づかなかつたりすることが多くあります。そして注意をすれば、だいたいの子どもは理解を示して自分の行動をあらためることが出来るので、取り立てて心配する必要はないのかもしれない。

ただ、このようなことが起きた背景について丁寧に考えてみると、今回の件に関しては善悪の判断ができなかったというだけでなく、そもそもマラソン練習という取り組みに対する姿勢自体が育っていないことも要因としてあげられるかもしれません。また、その場に声をかけられた友達たちがいたら、取り組みが変わったかもしれない。そのように考えると、日常の私たちの指導が至らなかつたことが、このような事態を招いたと反省するべき点もあります。

学校行事は、子どもを大きく成長させる可能性を持った活動です。日々の教育活動を充実させながら、一つひとつの行事を丁寧に受け止め、しっかりと準備をし、子どもたちとともにより素晴らしい取り組みにしていきたいと思えます。

# ☆各学年の取り組みの様子☆

これまでの学校生活の中で見られた成長の様子を、各学年の取り組みとともにご紹介します。

## 1年生「秋の散歩」



十一月中旬に、こどもの国へ秋の散歩に出かけました。春には桜並木や鮮やかな花々で彩られていた自然が、赤や黄色に紅葉した木々へと景色を変え、子どもたちは季節の移り変わりが自然の美しさを存分に味わうことができました。途中で、綿菓子や香りのするカツラの葉や大小様々な木の実などを見つけて、「あまいにおいがするね」「かわいいどんぐりがあるよ」などと、嬉しそうに友だち同士で教え合う姿も見られ、たくさん発見や感動を共有し合うこともできたようです。作品展では、このときに拾った葉っぱや小枝などの自然のもので作った、朝顔のリースやクリスマスツリーの飾りなどの作品も展示します。葉っぱの持つ色や形を上手に生かし、一人ひとりの個性が感じられるような素敵な作品に仕上がりましたので、ぜひお楽しみいただければ嬉しいです。

(鈴木)

## 2年生「みんなの広場」



十一月に、体育館で「みんなの広場」を行いました。「みんなの広場」とは、一年生との交流を深めることを目的に、二年生がアトラクションの企画や準備をし、一年生を招待して楽しんでもらうものです。二年生は、どのような企画にすれば一年生が喜んでくれるのか、アイデアを出し合い、ボーリングやキックターゲット、お化け退治、輪投げなど面白いアトラクションを企画しました。また、それを楽しんでもらうためには、一年生に分かりやすい説明をする必要です。一年生の立場になって説明の原稿を作り、それを理解し覚えることで、当日は、一年生に分かりやすく応対することができていました。子どもたちは、「一年生の「楽しかった」。「もう一回やりたい」などの声を聞くたびに喜んでいました。去年、自分たちがしてもらって嬉しかったことを、今度は自分たちが一年生にしてあげることができたことに、何よりの充実感を感じていたようです。

(蒲谷)

## 3年生「うさぎの飼育」



うさぎ小屋にいる二ひきのうさぎ、マロンとたれぞう。ひだまりの中で目を細めながら体を寄せ合うほどに、とても仲のよいうさぎたちです。

中休みと掃除の時間、三年生が当番でお世話をしています。うさぎ小屋の水・餌やり、掃除に加え、毛並みや動く様子など健康観察も欠かせません。子どもたちが特に気を配っているのが、たれぞうの目です。現在、目を患っているたれぞうの回復を、学年のみんなですべて祈っています。

毎日のお世話を通して、動物への関わり方を学びました。うさぎは臆病な性格の動物です。でも、うさぎのペースに合わせて優しい気持ちで気長に待っていると、うさぎからちよんこと寄り添ってきます。「うさぎが足元に寄ってきました。帰りの会でそのような報告を受けることがあります。子どもたちの温かいまなざしがうさぎたちに届いているのだと感じ、嬉しく思います。

(猪狩)



## 4年生「キャブテンキッド」

先月末、毎年恒例の四年生による「キャブテンキッド」の演奏会が開かれました。

四年生の楽器の活動では、聴奏の能力、視奏の能力、音楽を感じ取って楽器の表現を工夫する能力、曲に合った表現の能力、音に合わせて演奏する能力の五つを育てる、というねらいがあります。この曲の合奏はそうした点を網羅し、かつ子どもたちが主体的に練習に取り組むことのできる活動です。さらには、四年生から扱うアコーディオンを含めた合奏形態の導入でもあり、旋律の特徴や曲想を感じ取り、パートの役割や他のパートとのかかわりを意識し、聴き合いながら演奏するというねらいもあります。

また、音楽は演奏して満足するだけのものではなく、聴き手がいて成立するものであることから、例年休み時間に発表会を行い、「聴いていただく機会」にもしています。

休み時間に自主練習をしたり、そこでクラスを越えたかかわりが見られたりと、楽しみながら取り組んだ子どもが多かったです。「聴いていただく」ため、告知や招待状の配付なども自分たちで行いました。いくつかの反省点もありましたが、この活動が、子どもたちにとって成長のよい機会になってくれていることを願います。

(浅利)



## 5年生「稲作」

五年生は前期から後期にかけて稲作に挑戦してきました。社会科の授業では機械を使った現代の稲作について学習をしたのですが、子どもたちが取り組んだのは、手作業で行う昔ながらの稲作です。自分たちが行う作業について、必ず調べ学習を行うって方法を確かめてから実行に移しました。夏はあまり日差しに恵まれず、例年通り収穫できるか心配になることもありましたが、時に泥にまみれ、籾殻にまみれながら楽しく作業を行いました。機械を使わない作業を体験し、昔の人々の苦勞を感じる一方で、機械のありがたみも感じました。無事収穫を終え、現在は作品展に向けて稲作新聞を作成しています。作業時のエピソードや作業の中から掴んだちよつとしたコツなど、体験したからこそ出てくる表現が文章の端々で感じることができているものになっています。

(平本)



## 6年生「研究発表」

三年生から始まるコンピュータ学習のまとめとして、五年生の終わりから「研究発表」に取り組んできました。自分が興味・関心を持ったことを調べ、それをパワーポイントのスライドにまとめていき、ひかりホールで発表をします。

「調べる」「まとめる」「発表する」の三つの力が必要となりますが、授業では主に「まとめる」部分に多くの時間を費やしました。発表の際にわかりやすく、興味を持って聞いてもらうための工夫を考えながら、調べてきたことを一生懸命にスライドにまとめていきました。表や矢印・図を効果的に使う、アニメーションを使う、クイズを入れるなど、内容やその子の個性に合った工夫が随所に見られるスライドを作成する子が多く見られました。これからの人生でプレゼンテーションをする機会はいきつとあると思います。今回の経験がいきってくれることを願っています。

(新井)



日々の学校生活の中で、子どもたちは様々な活動を行っています。今回、ご紹介したものはほんの一部です。ぜひ、その他の学校の取り組みについてもお子さんから話を聞く機会を作っていただければ幸いです。今後もご理解とご協力の程、よろしくお願ひ致します。

## ～新体操服～

来年度より、本校の体操服・ジャージが変更になります。現在の体操服・ジャージは開校以来22年間デザインを変えずに使用してまいりましたが、時代の流れに合わせたデザインへ変更することになりました。今回の体操服・ジャージは、本校のスクールカラーである「青」を基調とし、左胸と右腿のロゴに「フライングT」をあしらっております。ロゴマークは、引っ張っても破れにくく、頑丈なつくりをしています。体操服の素材は薄手で速乾性に富み、透けにくい加工になっています。ジャージは軽い素材でありながら、防寒性は以前のものより優れています。これまでの体操服・ジャージと同じく、長い間、児童・保護者・教員に愛され続けるようなデザインになっていくことを期待しております。 (本田)



## ～保護者球技会～

先日、10月28日(土)に第19回となる保護者球技大会が行われました。この保護者球技大会も2009年から始まり、今年で8年目になりました。毎年、多くの保護者の方に参加していただき、今年度まで続けることができています。大会では、チーム内での保護者同士の交流があり、普段なかなか接することのできない学年の保護者の方と仲を深めることができているようです。また、私たち教員も多くの保護者の方とお話することのできる大切な機会となっています。保護者の方の中には「次は優勝できるようにがんばります。」と、話しかけてくださる方や、バレーボールを楽しむ場としても参加して下さる方など、様々な方がいらっしゃるようです。ぜひ、次回の保護者球技大会への参加をお待ちしております。 (尾崎)

